

有害物ばく露作業報告の告示予定物質一覧（平成23年予定）

	化学物質名	CAS番号	性状	①融点 (°C) ②沸点 (°C) ③蒸気圧	生殖毒性の GHS区分	モデルMSDSの記述	備考
1	アクリル酸メチル	96-33-3	揮発性を有する常温で無色透明の液体である。	① -76.5°C ② 80°C ③ 82.5 mmHg (=1.1×10 ⁴ Pa) (25°C)	分類できない	情報なし	
2	アセチルサリチル酸	50-78-2	特徴的な臭気のある、無色～白色の結晶または白色の結晶性粉末。	① 135°C ② 140°C (分解) ③ 0.004 Pa (25°C)	1 A	ヒトで生殖毒性を示す報告がある。	
3	イソシアン酸メチル	624-83-9	刺激臭のある、揮発性、無色の液体	① -80°C ② 39°C ③ 54 kPa (20°C)	1 B	ラット、マウスの妊娠後にばく露した試験で、胎仔の死亡、吸収胚の増加が報告されている。反復又は長期の接触により、ヒトで生殖・発生毒性を引き起こすという記載がある。	
4	塩化ホスホリル	10025-87-3	特有の匂いを持つ無色～褐色の液体。 水と反応して分解し塩化水素、リン酸を発生する。	① 1.25°C ② 105.8°C ③ 5.3 kPa (27.3°C)	分類できない	情報なし	
5	クロロエタン	75-00-3	常温常圧では無色の気体だが、加圧されると液体になる。	① -138.7°C ② 12.3°C ③ 1010 mmHg (1.35×10 ⁵ Pa) (20°C)	分類できない	データ不足（生殖能に関するデータなし）	クロロメタンはGHS区分1
6	2-クロロフェノール	95-57-8	特徴的な臭気のある無色の液体	① 9.3°C ② 175°C ③ 230 Pa (20°C)	1 B	ラットを用いた飲水投与試験で「一腹当たり胎仔数の減少、死産仔数の増加が見られた」（環境省リスク評価第6巻(2008)）と記述されており、一次文献（Environ Health Perspect. 46(1982)）には「ばく露された母動物の体重増加、赤血球数などの血液指標に影響はない」旨の記述があることから、区分1Bとした。ラットを用いた飲水投与試験で「催奇形性はみられなかった」（EHC93(1989)）との記述がある。	
7	臭素	7726-95-6	刺激臭のある暗赤色の液体。	① -7.25°C ② 58.8°C ③ 23.3 kPa (20°C)	分類できない	情報なし	
8	ピリジン	110-86-1	特徴的な臭気のある、無色の液体。	① -42°C ② 115°C ③ 2.0 kPa (20°C)	2	親動物の一般毒性についての記載はないが、睪丸及び副睪丸の萎縮や発情周期の延長が認められている。（環境省リスク評価 第2巻(2003)）	
9	メタクリル酸	79-41-4	特徴的な臭気のある、無色の液体または無色の結晶	① 16°C ② 163°C ③ 0.99 mmHg (0.13 kPa) (25°C)	分類できない	データ不足	

10	メタクリル酸メチル	80-62-6	特徴的な臭気のある、無色の液体	① -48℃ ② 100.5℃ ③ 3.9 kPa (20℃)	2	ラットの催奇形性試験で、母体毒性（死亡、体重減少等）が発現する用量で、胎児毒性（早期胎児死亡、頭尻長の減少、血腫の発生）がみられている（EU-PAR No. 22 (2002)）	
11	エチレングリコールモノエチルエーテル	110-80-5	特徴的な臭気のある、無色、油状の液体	① -70℃ ② 135℃ ③ 0.5 kPa (20℃)	1 B	環境省リスク評価第2巻（2003）、EHC 115（1990）、PATTY（4th, 1994）の記述から、マウス、ラット及びウサギにおいて、母体毒性がみられない用量で発生への影響がみられていることから、区分1Bとした。	
12	エチレングリコールモノメチルエーテル	111-77-3	無色の液体。	① < -84℃ ② 193℃ ③ 30 Pa (20℃)	1 B	CERIハザードデータ集2000-26（2001）の記述から、マウス、ラットで母動物毒性のみられない用量で胎児の発生への影響がみられることから、区分1Bとした。	

注：「職場のあんぜんサイト」のモデルMSDSより作成。「情報なし」と「データ不足」の違いは不明。

GHS「1 A」：ヒトに対して生殖毒性があることが知られている物質 「1 B」：ヒトに対して生殖毒性があると考えられる物質
「2」：ヒトに対する生殖毒性が疑われる物質